

取扱説明書

保証書付



REMOCK®(リモック)をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
本製品は、鍵穴がないリモコン式でピッキングは不可能。
鍵穴がなければドロボーもお手上げです。
REMOCK®があなたと大切な家族をピッキングから守ります。

- ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みいただき、正しくお使いの上いつでもご覧になれるところに保存しておいて下さい。
- 保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめて、販売店からお受け取りください。

使用上の注意

警告



禁止

製品のお取り扱いについて

- 本製品は精密な電子部品を使用しておりますので、衝撃を与えたりケースを開けたり、分解、改造は絶対にしないで下さい。
- 本体及びリモコンは、高温、多湿、または埃や油煙の多い場所での使用・保管はお控え下さい。また水がつかると故障の原因となりますので、くれぐれもご注意下さい。
- 本体の取り付け、取り外しの際は落下等に十分ご注意下さい。



必ず実施

電池交換はお早めに

- 電池交換お知らせのランプが点滅したら速やかに本体の電池を新しい電池と交換して下さい。
- リモコンキーのLED ランプが暗くなったり、感度が悪くなったら速やかに新しい電池と交換して下さい。



必ず実施

リモコンキーのお取り扱いについて

- リモコンキーは紛失しないようくれぐれもご注意下さい。念のため紛失の場合に備え、予備のリモコンキーを安全な外部に保管しておいて下さい。
- 本製品は外部からのピッキング等による解錠を防ぐ特徴を持っており専門家であっても解錠はできません。

注意



禁止

電池のご使用について

- REMOCK® 本体には必ずアルカリ電池をご使用下さい。充電式電池などのアルカリ電池以外の電池では正常に作動しない事がございます。
- 本体の電池交換の際は必ず新しい電池を4本同時に交換し、古い電池と新しい電池の共用はしないで下さい。また交換の際は+を間違えないようご注意下さい。
- リモコンキーには必ずボタン型電池 CR2032 をご使用下さい。
- 長期の不在等で長期間ご使用されない時は、乾電池の液漏れ等の恐れがありますのでご使用をお控え下さい。
- 指定された電池以外の電池を使用した事に起因する製品の故障は保証の対象外となり、製品やドアの修理・交換費等はお客様のご負担となりますのでご注意下さい。



必ず実施

取り付ける際は

- 必ず本説明書の取り付け方法に従って取り付けて下さい。本説明書と異なった取り付け方法による不具合や落下等に対する責任は負いかねます。
- はさみ等を使用する際はお取扱いに十分ご注意頂き、ケガ等にはくれぐれもお気を付け下さい。

使用上の注意



確認



必ず確認

製品の取り付けについて

- 取り付けの前に室内に本体を置き、室外から全てのリモコンキーで正常に作動するか必ず作動テストを行って下さい。
- 粘着シートは貼り付けるドアや外枠の材質によって貼り付けできる強度が異なります。
木製ドア等の貼り付け強度の低い素材に設置する場合は必ずビス止めを行って下さい。
- 極端に温度が低い状態や温度が高い状態では、粘着シートの貼り付け強度が低下する場合がありますので作業をお控え頂くか、設置面を温めるなどの処置後に設置して下さい。
- 粘着シートは一度貼り付けた後に再度貼り直すと強度が著しく低下しますので、貼り付ける際は貼り付け位置等を十分ご確認の上作業して下さい。
- 本説明書に記載のない特殊な方法で取り付けをされる際は、設置位置や設置後の稼働範囲等を十分ご確認頂き取り付けして下さい。



必ず確認

製品のご使用について

- 貼り付け完了後粘着シートが完全に定着するまでは製品に無理な力が加わらないようご注意ください。
設置後 2 日程度ご使用をお控え頂く事をおすすめします。
- 本製品はリモコンキーからの電波を本体が受信し作動します。
ご使用になる環境によっては剽隔操作できる距離が著しく短くなる場合があります。
- 外出時には製品の施錠音だけでなく実際にドアが施錠されているかを必ずご確認下さい。
- 本体のリモコンキー登録ボタンを押すとこれまで使用していたリモコンキーの情報が抹消されます。
複数のキーを使用される場合は必ず使用する全てのリモコンキーがお手元にある状態で操作して下さい。
- 転居や移設時は必ず指定のキャッチとベースカバーを販売店にてお求め頂き移設して下さい。

目次

ご使用前に

使用上の注意	2
セット内容と各部の名称	5
REMÖCK® の特長	6

ご使用の準備

電池を入れる・交換する(本体)	7
電池を入れる・交換する(リモコン)	8
リモコンを登録する・抹消する	9

取り付ける際の注意

取り付ける際の注意	10
-----------	-------	----

取り付けの準備

ベースカバーを調整する	12
-------------	-------	----

取り付け方法

取り付け位置を確認する	13
-------------	-------	----

本体を貼り付ける	14
スペーサーを取り付ける	15
本体を圧着する	16

戸当りのないドアへの取り付け

キャッチを準備する	17
キャッチを貼り付ける	18
本体を貼り付ける	19
本体を圧着する	20
作動チェックをする	21

取り外し方法

本体を取り外す	22
---------	-------	----

取り付け例

開き戸 / 引き戸	23
-----------	-------	----

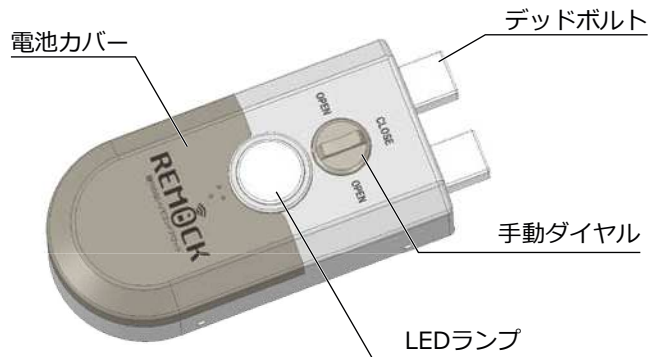
保証とアフターサービス

補修部品 / 保証書	24
------------	-------	----

セット内容と各部の名称

本体

×1



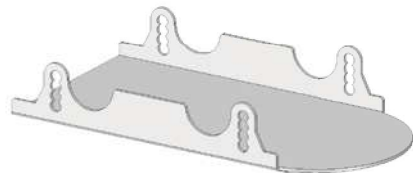
リモコンキー

×4



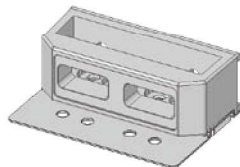
ベースカバー

×1



キャッチ

×1



付属品

- ビス (ベースカバー用) …×4
- ビス大 (キャッチ用) …×4
- 単3乾電池 (動作確認用) …×4
- ボタン電池 (動作確認用) …×4
- スペーサー (3.5.8mm) …×各1



REMOCK®の特徴

カギ穴なしで
ピッキングや
サムターン廻しを
完全ガード!!



● **携帯に便利なリモコンキーでラクラク施・解錠**

● **工事不要だから賃貸でもOK**

穴あけ工事不要の超強力特殊粘着シートで取り付け!
ドアを傷つけないから、賃貸マンション、事務所、店舗にも
OK! 取り付け場所を選びません。

● **リモコン開閉だから、カンタン!ラクラク!**

リモコン式だから、お子様やお年寄りの方でもラクラク操作。
しかも、コンパクトで携帯にも便利。もしリモコンを紛失し
ても簡単に登録を抹消できるので安心。

● **電池交換お知らせ機能**

電池残量が少なくなると、ランプが点滅し、施・解錠音が変
わり交換時期をお知らせ。電池交換をしなければ、解錠はで
きても施錠ができなくなる安心設計。

● **引き戸はもちろん、勝手口にも最適**

● **1年間の製品保証で安心**

万が一の故障の際にも安心の1年間保証。

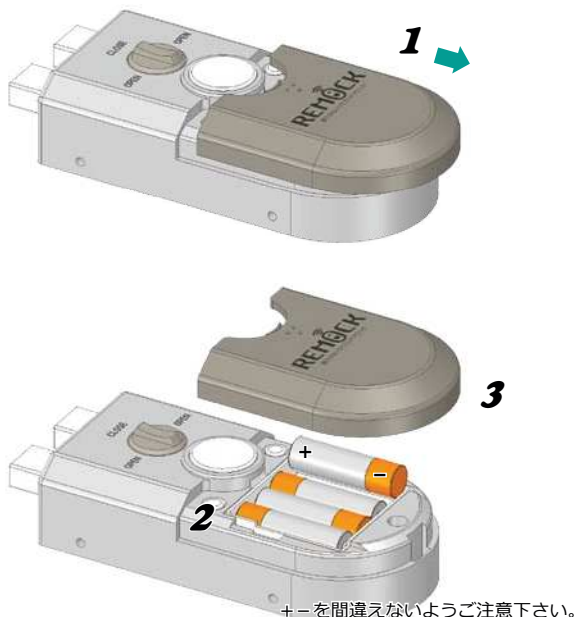
注意

リモックはあくまでもセカンドキー(補助錠)ですので、防犯のため必ず
メインキー(主錠)と併せてご使用下さい。

ご使用の準備

電池を入れる・交換する

本体



1 電池カバーを矢印の方向にスライドさせ取り外します。

2 単3型アルカリ乾電池を4本入れます。

3 電池カバーをスライドさせ元通りに閉めます。

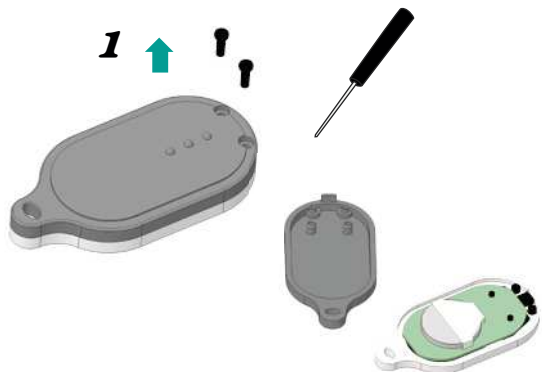
電池交換お知らせ機能

- REMOCK®本体には、電池交換お知らせ機能がついています。電池残量が少なくなると、LEDランプが点滅し、施・解錠音が変わります。電池残量が少なくなりましたら、速やかに電池を交換して下さい。そのまま使用すると、解錠はできますが施錠ができなくなり、施錠したままの状態では放置すると解錠もできなくなります。
- 3～6か月留守にされる場合は、必ず新しいアルカリ乾電池に交換して下さい。(6ヶ月以上留守にされる場合は、絶対にご使用にならないで下さい)
尚、上記の不注意によるトラブルについては乾電池の液漏れ等を含み保証の対象外となり、解錠等の対処に関わる費用もお客様のご負担となります。

ご使用の準備

電池を入れる・交換する

リモコン

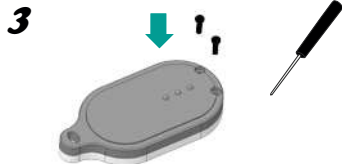
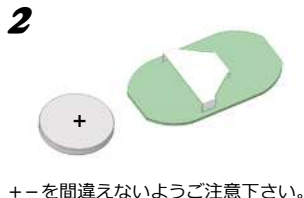


1 リモコンキー裏面のビスを外しカバーを開けます。

2 本体を取り出しスライドさせるように電池を入れます。

3 本体を元に戻しカバーをかぶせた後ビスを締めます。

- 無理な力を加えると基盤が損傷する恐れがありますのでご注意ください。
- ご購入時に備え付けております本体及びリモコンキーの電池は、動作確認用の電池です。一定の使用期間をお約束するものではありませんので動作確認後は早めに新しいものと交換してご使用下さい。
- リモコンキーのLEDランプが暗くなったり、感度が悪くなった場合は速やかに新しい電池と交換して下さい。



ご使用の準備

リモコンを登録する・抹消する

1



3



1 電池カバーを外します。

2 電池ケース内の登録ボタンを約2秒長押しします。

- “ピピッ”と音が鳴りLEDランプが点滅します。
※この段階で本体に登録されているリモコンキーが全て抹消されます。

3 登録する全てのリモコンキーのボタンを順に押します。

- 施錠・解錠どちらのボタンでも登録できます。
全てのリモコンキーのボタンを“ピッ”と音が鳴るまで押して下さい。

4 登録ボタンを押します。

- “ピリリピリリ”と音が鳴れば登録完了です。
- 必ず登録した全てのリモコンキーが正常に作動するか確認して下さい。
登録したリモコンキーが1つでも作動しない場合は再度2～4の作業を行って下さい。

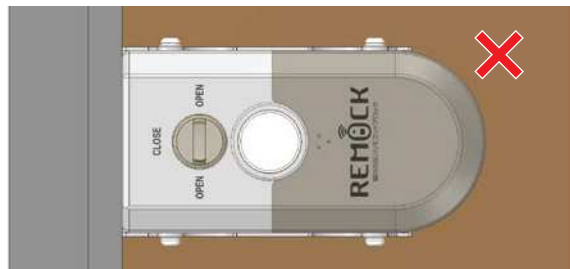
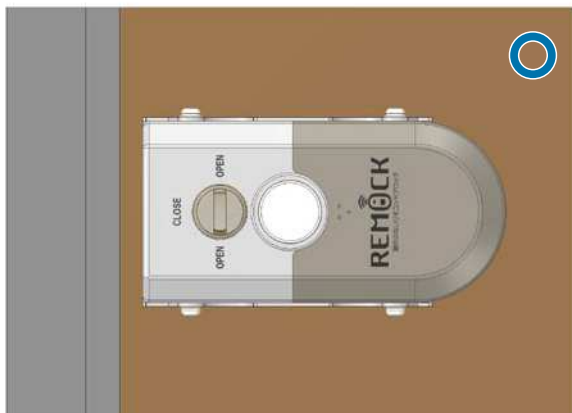


- 登録ボタンを押し約15秒放置すると、自動的に登録完了状態となります。
- 今まで使用していたリモコンキーでも、上記3の作業にて登録していないリモコンはご使用できなくなりますのでご注意下さい

取り付けの際の注意

横付けのとき

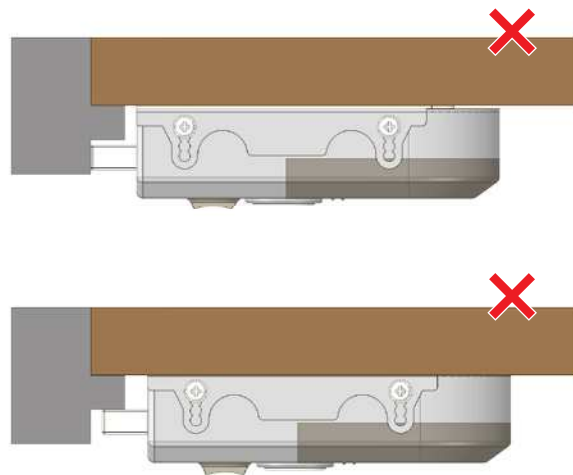
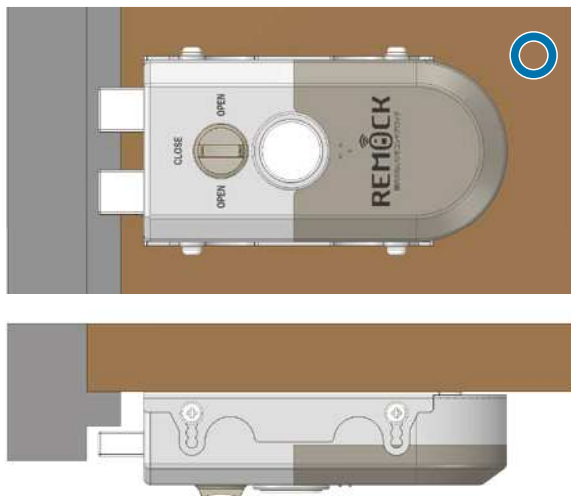
必ずドアの端にスペースを空け取り付けてください。



本体をドアの端に取り付けるとドアを開ける際、本体が戸当りに干渉し開けられません。
必ずドアの端(戸当り)から8~10ミリほど空けた位置に取り付けてください。

取り付けの際の注意

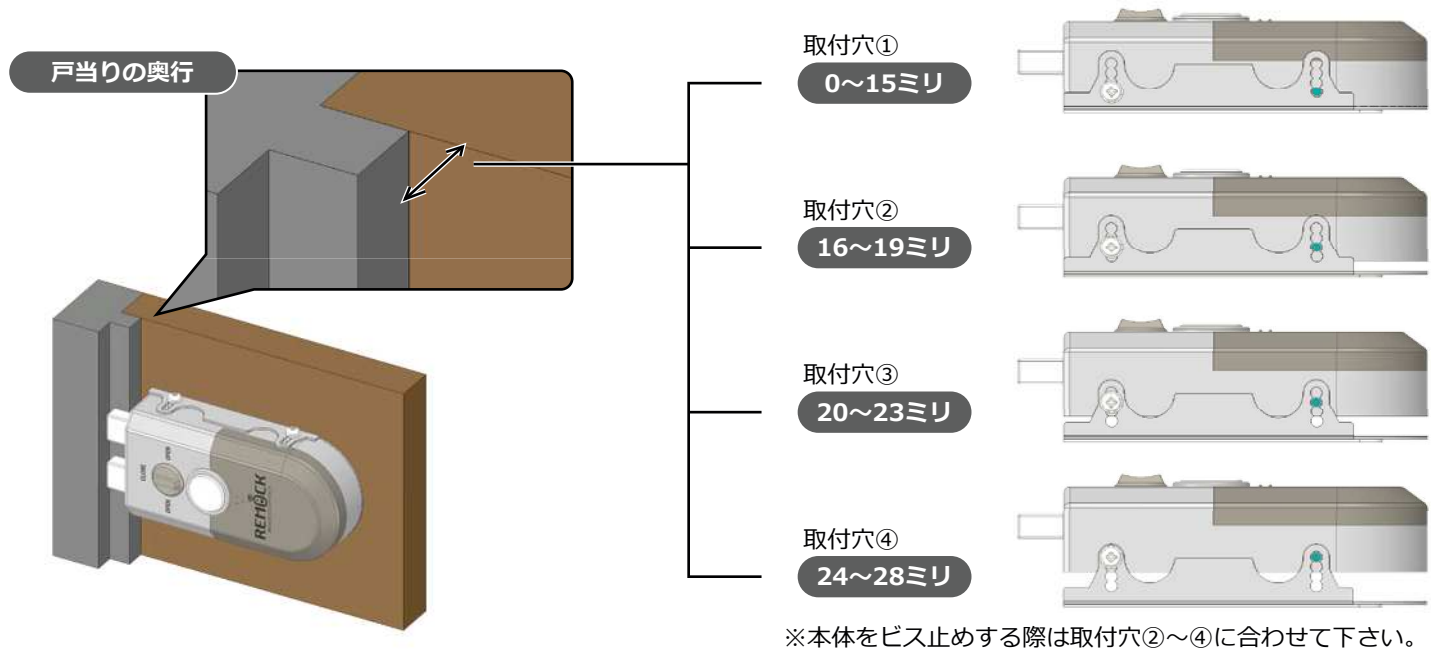
施錠した状態で、デッドボルトが戸当りなどに干渉しないように取り付けてください。



施錠時にデッドボルトが干渉する位置に取り付けると、リモコンによる施解錠ができません。取り付け前にデッドボルトが戸当りなどに干渉しないか、必ず確認し作業してください。

取り付けの準備

戸当りの奥行のサイズに合わせベースカバーを取り付けます。

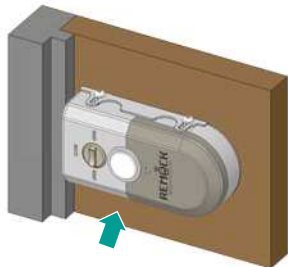


上記は目安です。実際に設置されるドアに合わせて高さを調整して下さい。

取り付け方法

取り付け位置を確認する

1

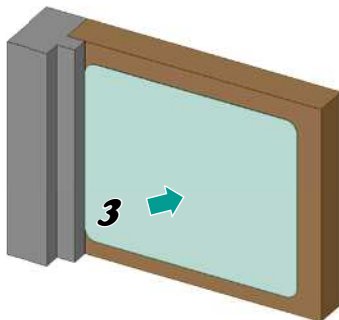
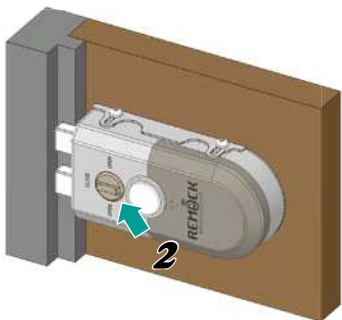


1 本体を貼り付ける位置に当てます。

2 手で施解錠しデッドボルトが干渉しないか確認します。

3 本体を貼り付ける部分をアルコールなどで拭きます。

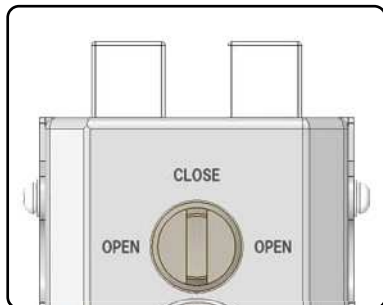
- 室温が10℃以下の場合はドライヤーなどを使い、貼り付ける面と粘着シートを20℃程度まで温めて下さい。



取り付け方法

本体を貼り付ける

1



1 手動ダイヤルを回し施錠状態にします。

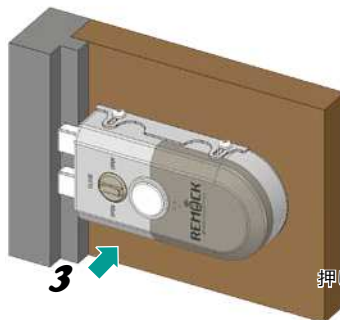
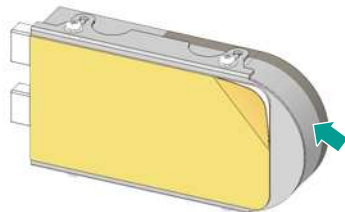
2 ベースカバー裏の保護紙をはがし取ります。

- 接着力が低下しますので粘着シート部には触れないようご注意ください。

3 ドアに貼り付けしっかりと圧着します。

- デッドボルトが戸当りなどに干渉しないよう、取り付ける際の注意(P10～P11)をよくご確認の上、本体を貼り付けてください。

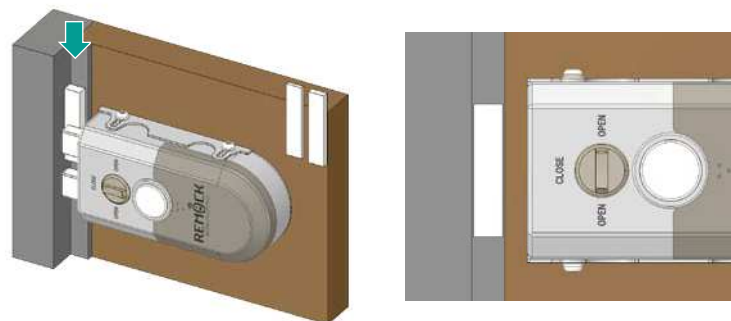
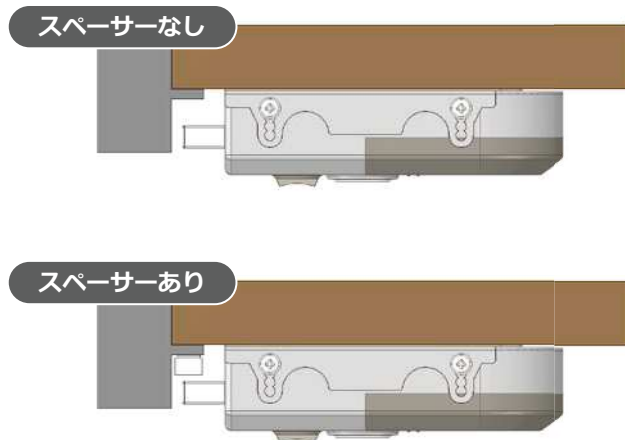
2



押し当てた状態で30秒以上圧着して下さい。

スペーサーを取り付ける

戸当りとデッドボルトのすき間が大きいときは、スペーサーを取り付けすき間を調整します。



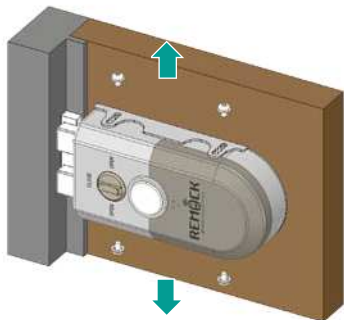
戸当りとデッドボルトの間に3種類のスペーサーを入れ最適なスペーサーを選んで下さい。スペーサーの高さが足りない時は2枚のスペーサーを貼り合わせてお使いください。スペーサーの高さが決まったら手動ダイヤルで解錠し、戸当りの最適な位置に貼り付けます。

デッドボルトとスペーサーのすき間を詰めすぎないように、3~5mm程度はすき間を空けて下さい。

取り付け方法

本体を圧着する

1



1 ビスを外しベースカバーから本体を外します。

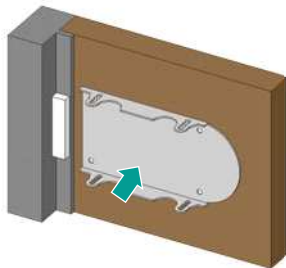
2 ベースカバーとスペーサー全面をドアに圧着します。

ビス止めする時は

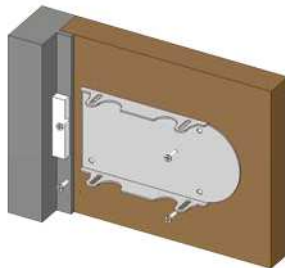
3 ベースカバー用ビス(シルバー)で4か所ビス止めします。

4 再度本体をベースカバーに取り付けビス止めします。

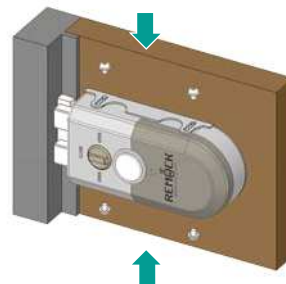
2



3



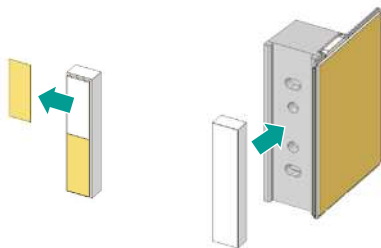
4



戸当りのないドアへの取り付け

キャッチを準備する

1

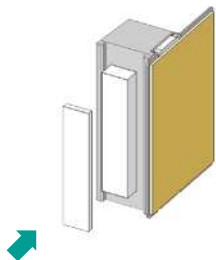


1 8mmスペーサー裏の保護紙を半分剥がしキャッチに貼ります。

ビス止めする時は

2 3mmスペーサーを重ねて貼ります。

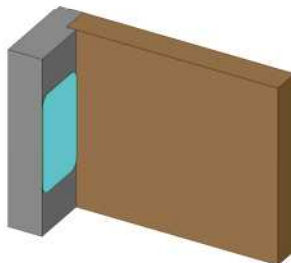
2



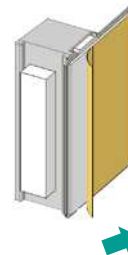
3 キャッチを貼り付ける部分をアルコールなどで拭きます。

4 キャッチ裏の保護紙をはがし取ります。

3



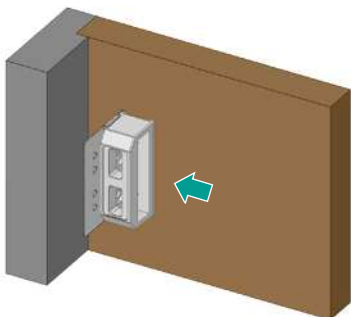
4



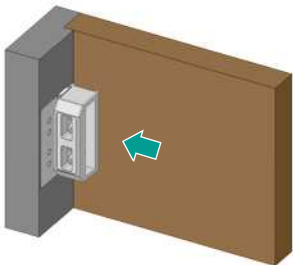
戸当りのないドアへの取り付け

キャッチを貼り付ける

1



2



1 スペースをドアに当てた状態でスライドし外枠に当てます。

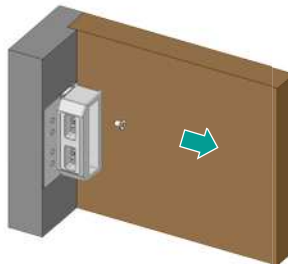
2 キャッチを外枠に十分圧着させます。

ビス止めする時は

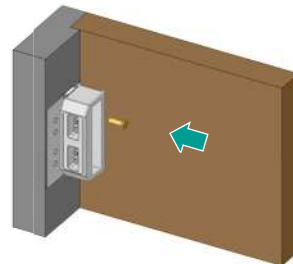
3 キャッチを結合しているビスを取り外します。

4 ビス止め用ビス(ゴールド)で止め固定します。

3



4

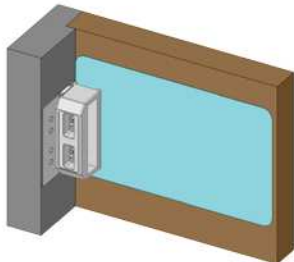


4か所とも同様に作業し固定して下さい。

戸当りのないドアへの取り付け

本体を貼り付ける

1



1 本体を貼り付ける部分をアルコールなどで拭きます。

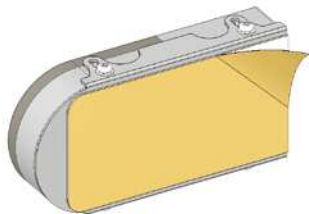
2 ベースカバー裏の保護紙を剥がし取ります。

- 接着力が低下しますので粘着シート部には触れないようご注意ください。

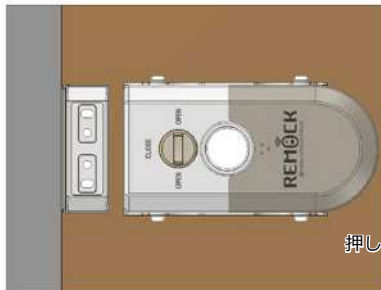
3 キャッチから8～10mm程離れた位置に本体を貼り付けます。

- 室温が10℃以下の場合はドライヤーなどを使い、貼り付ける面と粘着シートを20℃程度まで温めて下さい。

2



3

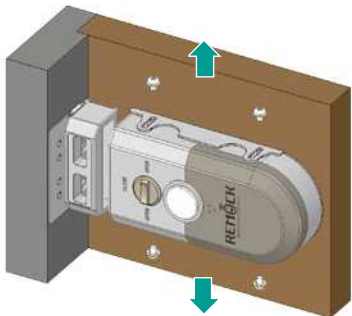


押し当てた状態で30秒以上圧着して下さい。

戸当りのないドアへの取り付け

本体を圧着する

1



1 ビスを外しベースカバーから本体を外します。

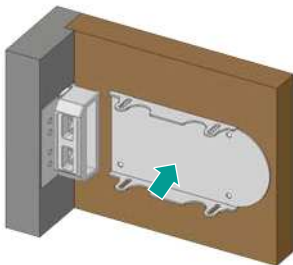
2 ベースカバー全面をドアに十分圧着します。

ビス止めする時は

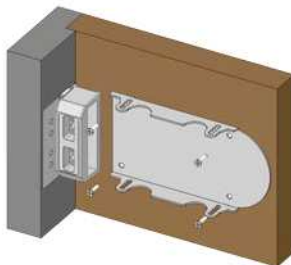
3 ベースカバー用ビス(シルバー)で4か所ビス止めします。

4 再度本体をベースカバーに取り付けビス止めします。

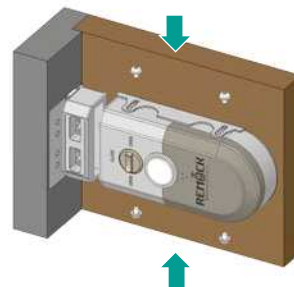
2



3



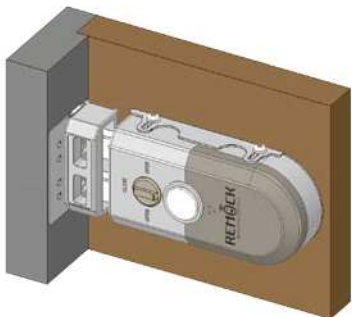
4



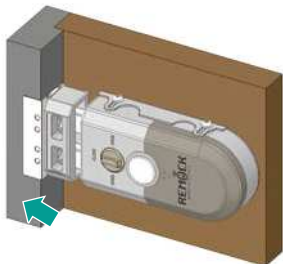
戸当りのないドアへの取り付け

作動チェックをする

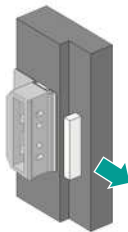
1



2



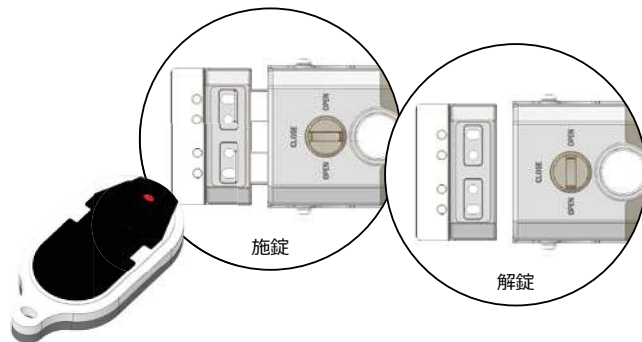
3



1 手動ダイヤルで施錠し干渉しないか確認します。

2 必要であればキャッチのアルミプレートを曲げます。

3 ドアを開けキャッチに貼り付けたスペーサーを外します。

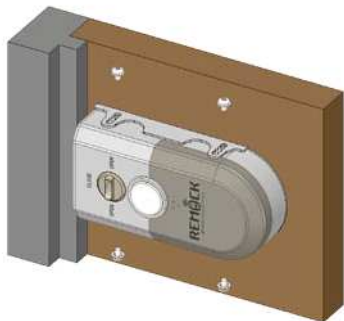


リモコンキーを操作し問題なく施錠できるか確認して下さい。

取り外し方法

本体を取り外す

1



1 ベースカバーのビスを外し本体を取り外します。

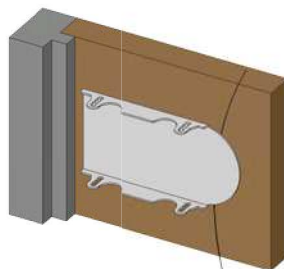
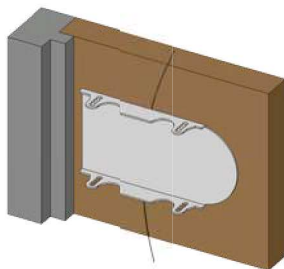
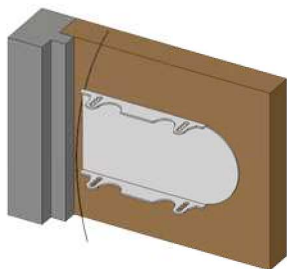
2 細い針金やピアノ線を使い粘着シートを切り離します。

- 針金やピアノ線がドアに触れないようご注意ください。
- ケガをしないよう軍手などを着用し作業して下さい。

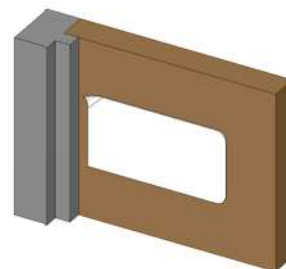
3 ドアに残った粘着シートを端からめくり取ります。

- キャッチも同様の方法で取り外します。

2



3

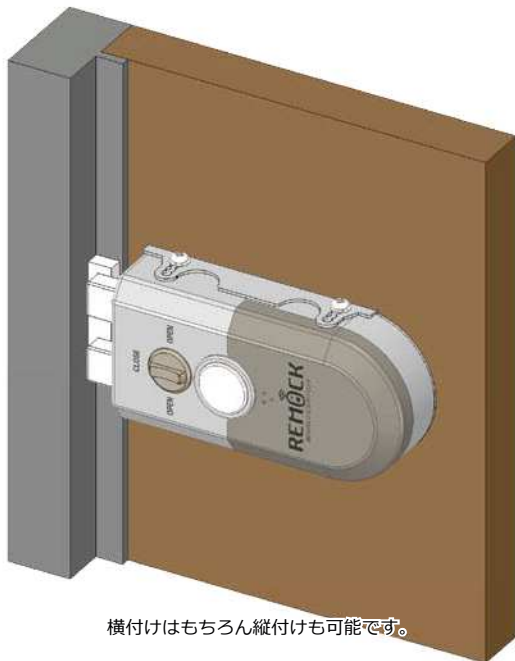


必ずしもドアが傷つかない事を保証するものではありません。

取り付け例

開き戸

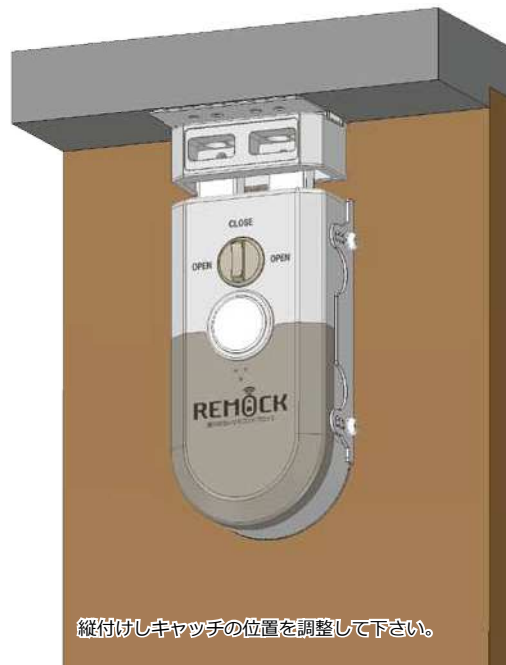
戸当りを利用し施錠します。



横付けはもちろん縦付けも可能です。

引き戸

キャッチを使用し施錠します。



縦付けしキャッチの位置を調整して下さい。

上記は一例です。全てのドアに取り付けができる事を保証するものではありません。

追加部品・補修品カタログ

リモコン



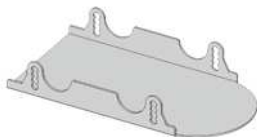
室内用リモコン



キャッチ



ベースカバー



製造販売元



〒612-8445 京都市伏見区竹田浄菩提院町132

NUオフィス京都竹田 5F

TEL 075-605-5169 FAX 075-605-5170

<https://www.yamamotocorp.com>